
隊長とじいちゃん

ていん？がー！

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

隊長とじいちゃん

【Nコード】

N4865BA

【作者名】

ていん？がー！

【あらすじ】

少女ラウラ・ボーデヴィツヒは逃げ出した。

自分を生み出した軍隊から

自分を戦うための道具として育て上げた軍隊から

自分が使えないと分かると出来損ないとして虐げた軍隊から

そんな中、ラウラはアイスクリームを売る一人の老人と出会う。

「嬢ちゃん、アイス食うかい？」

ラウラはこの老人との出会いが自分を、そして世界を変えらるゝ夢にも思わなかつた…。

これはラウラと老人が織り成す笑いあり涙ありの物語である。

第一話『出会いはアイスで始まり屁で終わる。』（前書き）

どうも、ていん？がー！です。

自分でもびっくりの第二作です。

ISについての知識はトーシロですが

これからもっと頑張っていきますので応援よろしくお願いします！！

第一話『出会いはアイスで始まり屁で終わる。』

インフィニット・ストラトス―通称IS―

それは宇宙空間での活動を想定し、開発されたマルチフォーム・ス
ーツ。

しかしISはその攻撃力、防御力、機動力のどれを取っても従来の
兵器を凌駕する圧倒的な性能により宇宙進出よりも飛行パワード・
スーツとして各国で軍事運用が始まった。

そしてISの適合性を高めるために非人道的な実験に手を染める国
も少なくない…。

どれくらい走ったのだろうか？

私は足を止めて周りを見渡す。

人通りも多く賑やかな町通り。

それに『やつら』も追ってくる気配がない。
何とか撒けたか…

そう結論付けると少女は少し安心したのか路地裏の薄汚い壁にもたれ座る。

少女の名はラウラ・ボーデヴィツヒ。

10にも満たないがドイツ軍に所属する正真正銘本物の軍人だ。

しかしなぜまだ幼い彼女が軍に所属しているのか。答えは簡単だ。

彼女が

『つくられた存在』だからだ。

ラウラは遺伝子強化試験体として生み出された試験管ベビーである。

最初から戦うための道具として生み出された彼女はありとあらゆる兵器の操縦方法や戦略等を体得し、優秀な成績を収めてきた。

最初は何度も根をあげそうになり逃げ出そうとしたこともあった。

しかし、それを踏みとどめたのは軍人としてのプロ意識とエリート意識だった。

自分は軍人としての才能がある。
自分は国に仕えるために生まれた存在だ。
自分は常に優秀でなければならない。

それはいつでもラウラを支えてきた

が、ある時を境にラウラを支えてきたものは音も無く崩れさることになる。

インフィニット・ストラトス―通称IS―

ドイツ軍は軍事力向上のためにラウラにISとの適合向上としてヴ
オーダン・オージエを埋め込んだ。

これでドイツの軍事力は更なるものへと上がる。
誰もがそう確信して疑わなかった。

だが結果は不適合だった。

これによりラウラの左目は金色に変色し、さらに能力を制御しきれずに全ての訓練で基準以下の成績しか取れなかった。

そしてそこから今まで持て離れていた軍はエリートとしてではなく出来損ないとして見るようになった。

だんだんとラウラの中に焦りと恐れが渦めいてくる。

—このままでは私は処分されてしまう—

ラウラは遺伝子データの問題、能力の不向上等の理由で処分された
どつりよう
実験体を何千人も見てきた。

だから直感で分かる。

自分は処分されてしまう、と。

そして彼女は今まで踏み止まってきた軍からの脱走を行った。

生まれた時からいる基地の抜け道など既に把握していた。

だが基地から抜け出た直後、ラウラを捕まえるための追っ手がきた。

追っ手は銃を撃ってきた。

どうも無傷で済ます気はないようだ。

左太股に一発、右肩にもう一発食らった。

酷い痛みも無く、さらにしばらくすると意識がぐらついたことから
どうやら麻酔弾のようだった。

だがそれでもラウラは追っ手を振り切って近くの街まで逃げ延びて
今に至る。

しかし安堵しきったせいか急な眠気がラウラを襲う。

（しまった…さっきの麻酔…弾……か……）

そうしている間にラウラの意識は徐々に遠のいてくる。

もう終わりか、と静かに諦めたとき

「らっしやいらっしやーい！

特製バリうまアイス！ここで食わなきゃ一生損するぜー！
坊っちゃん嬢ちゃん食ってきなー！」

向こうの通りからやけにやかましい声が聞こえた。

ラウラはその声がした方に少ない意識を振り絞って見てみるとそこにはアイスワゴンを引いている老人がいた。

「わーい！じいちゃんのアイスはすごくおいしいや！」

「ダッハッハッ！あたぼうよ！なんたって俺のアイスは世界一だ！
！転んでこぼしても知らねえぜ、ジヨン！」

老人は子供達にアイスを売っていて
しかも子供達から好かれてるようだ。

だがその直後老人は何かに気付いたかのように急いで店じまいを
始める。

「おう、そろそろ閉店の時間だ！
気いつけて帰れよ！」

「『バイバイじいちゃん！』！」「」

老人は子供達に別れを告げるとワゴンを引いてラウラがいる路地裏
まで走り出した。

そしてラウラのすぐ前まで来ると老人は
「嬢ちゃんしっかりしろ！！」、「と言い様子確かめるためにしや
がむ

が、その時

ブボオオッ！！！！

老人がしゃがんだ途端、凄まじい音が路地裏に広がる。

ラウラはその音に警戒するが直後に異変に襲われる。

（グガアア！！…何だこの…臭…気は……）

「あっ、そっぴや今日新しく作っただけの芋アイスを6個食ったんだっけな！」

第一話『出会いはアイスで始まり屁で終わる。』(後書き)

こんなスタートですが感想お願いします。

あとラウラファンの皆さんすみませんでした！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4865ba/>

隊長とじいちゃん

2012年1月13日20時59分発行